

サーキット・ライダー 2003年 6月号

陰性から陽性へ

・・・空の鳥を見なさい。種も撒かず、刈り入れもせず、蔵に納めもしない。だが、あなた方の天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか。・・・野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、言っておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花一つほどに着飾ってはいなかった。今日生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか、信仰の薄い者たちよ。だから「何を食べようか」「何を飲もうか」「何を着ようか」と言って、思い悩むな。・・・何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。

マタイ 6：1－33.

ニュージャージーはここ数週間、まるで梅雨のように雨が降り続いています。例年でしたら半袖で眩しい日差しの下、色鮮やかな緑を味わう頃ですが、もっぱらオフィス、会議場、家と、屋内に留まり気持ちも沈みがちですが、皆様はいかがお過ごしでしょうか？欧米（と一緒くたにするには広範囲すぎますが）では6月は **June Bride**（6月の花嫁）という言葉がある程、爽やかな季節で結婚式をするに最適と考えられていますが、どうも実感が湧きません。例年、第3日曜日は父の日でパークリッジのアメリカ人会衆は父の日、野外礼拝、ピクニックを行っています。皆で昼食を持ち寄り、教会がハンバーガー、ホットドック（いかにもアメリカ風）を用意し、礼拝後いただき交わりを持ちます。私たち日本人や教会を共に使っているインド人会衆も参加する楽しい野外礼拝ですが、ここ3年雨で流れています。どうもやはりこの時期、雨に一喜一憂させられるようです。

一喜一憂という言葉はまさに私たちの日々の姿と言う感じがします。何かと言うと不安になったり、物事がうまく行かないとすぐに落ち込んだり、人とトラブルがあるとすぐ憤ったり、相手のせいにしたり。時折、この人は本当に信仰を持って生きているのだろうか？と首を傾げたくなるほど、物事を負に捉える陰性の方がいます。世の中には色々と恵まれない方が沢山います。しかしその人たちが皆不幸かというと、その多くの人たちが「幸せですよ。」「不幸なんてことはありません。」「ちょっと生活が大変なだけです。」と一生懸命、今を生きています。一方これでもか、これでもかと不幸を背負って歩いているような方がいますが、これが陰性の生き方、負の生き方です。

知り合いにここ数年、災難続きの方がいます。腰痛から始まり、事故、事故後の車の処理、お金の問題、雪の日にすべって骨折、白内障、リュウマチからくる手足の痛み、腱鞘炎、離婚した前夫の闘病生活、死亡後の財務処理、長年の交際相手の病気と破局・・・まだまだあります。書き連ねたら限（きり）がありません。確かにこの方の話を聞いているだけでドッと落ち込んでしまいます。しかし話を良く聞いていると「待てよ、この人は本当に不幸だろうか？」と疑問が湧きあがります。何故なら、確かに色々あったのは事実ですが、今そのような状態にいるかと言うとそうではないのです。病気も治り、連れ合いとの問題も解決し、自由に出歩けるようになった。さぞ明るく愉快に過ごしているだろうと思いきや、今度は「一人でこれからどうやって生きていこう」「今の所から出なくてはならないかもしれない」「お金が無いから近所には住めない」「子供たちが招いてくれているけど、新しい所へ行ったら、友達もいないしやっていけない」「どうしたら良いか分からない」と言って、またまた落ち込んでいます。

御解りでしょうか？この方の問題は色々重なった病気や出来事ではないのです。この方の問題は「自己中心の考え、生き方」「陰性の姿勢」にあります。確かにお金が無いことは不安です。今いる所から出て行かなければならないかもしれないのも辛いことです。しかしそんな不安を抱えた一人暮らしの自分を思い、呼んでくれている子供たちがいる。なんと有難いことでしょう。しかしこれは人事ではありません。私達もともするとこの陰性の生き方に陥ってしまいます。聖書は言います。「空の鳥、野の花を見よ。」と。「明日のことばかり思い煩わず今を精一杯生きよ。」と。それはとりもなおさず自己中心の生き方＝陰性から神中心の生き方＝陽性へと変わることを意味しています。雨は恵の雨。日照りは命の輝き。幸福か不幸かはその人の主体的な生き方にもよるのではないのでしょうか。自分のことばかり考えず神と隣人と共に歩んで生きたいものです。

吉松 純